



「みんなで盛り上げていこう」という気持ちが大きな力となります。

さて、話は変わりますが、以前このコラムで朝市のことに触れました。出店者側の魅力的で安い商品をそろえる努力はもちろん大切でしょうが、わたしをはじめ市民みんなの「盛り上げていこう」という気持ちが大変重要だと思います。わたしたち一人ひとりがそういう気持ちになったとき、大きな力、大きな支えとなるのではないのでしょうか。地元の商店、地元のマール

木田市長の





vol.30
一人ひとりの力の結集

鳥羽パールビルが38年間の歴史に幕を降ろし、閉館しました。市民にとっては寂しく残念なことです。無料駐車場がないことから、車を利用するお客さんにとっては不便な面もあったでしょう。市としても何か打つ手はなかったのかと考え込んでしまうところです。

市はよく市議会や市民から「もつと市内業者を利用するように。少々値段が高くても市内で買い物をするように。」と言われます。しかし、わたしたちは自らの生活を振り返っても、なかなかそうはいかない場合があります。そろえてある品数の問題、値段の問題、駐車場の問題…。

ツト、地元のレストラン、地元の床屋さん、地元の大型店舗など、みんなが意識して利用しているでしょうか。もつとわたしたちが利用して活性化させないと、考えるのはわたしだけででしょうか。

また、今後最も大きな問題となるであろう地球温暖化の話題や、市内を汚すごみのポイ捨て問題でも、「自分ひとりくらいは」という考え方が大きなネックとなっているのは明らかです。

堅神から伊勢へ抜ける道路のある決まった場所に、いつもごみが捨てられています。その場所に差しかかかったとき、車の窓からごみを捨てるのでしよう。毎日そこにごみを捨てて、ただでごみ処理をする人と、毎日そのごみを集めて掃除をする人の存在。同じ人間でもあまりにも差がありすぎるように思います。

「二人は万人のために、万人は一人のために」という言葉があります。一人ひとりの力が結集すれば万人の力になります。市民みんなで地元の経済を支え、地域の環境を守り、鳥羽市の活性化に貢献したいと思えます。



**人権文化の
花を咲かせよう**

Vol.69

金子みすゞさんのまなざし

金子みすゞ記念館館長
矢崎節夫

積った雪

上の雪

さむかるな。
つめたい月がさして

下の雪

重かるな。
何百人ものせて

中の雪

さみしかるな。
空もじべたもみえない

みすゞ仲間のひとりに、小田原でクリニックをしている山田洋介さんというお医者さんがいます。

ある夜、クリニックから帰ってきて居間でゆっくりしていると、テレビから歌が流れてきた。30年代のなつかしい歌でした。聴くともなく聴いていて、えつ、と驚いたそうです。

「その歌は『大きな古時計』という歌でね、聴いていて、えつ、それちがうんじゃないの。今はもう動かない、と歌っているけど、そうではなくて、動かさないんじゃないの」と思ったということです。

この、えつと思うことは、はつと気付くことがすばらしいですね。壊れているなら直せるのではないかと、気づき、佇める、こんな友人を持つて幸せだなとつくづく思いました。

上の雪や下の雪ではなく、中の雪に「はつ」と気づき、佇める人は少ないでしょう。人権とは、何気ないことにはつと気付く、佇むことといつてもいいのではないのでしょうか。

※作品出典は「金子みすゞ童謡全集」より